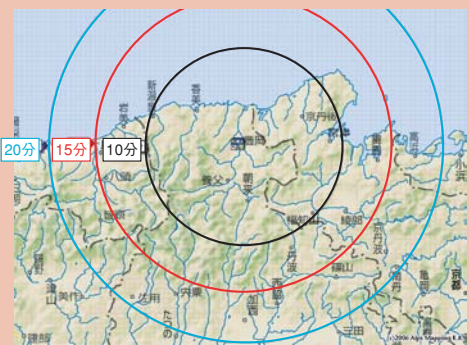


ドクターヘリ運航開始

今年度から、公立豊岡病院を拠点とするドクターヘリシステムがスタートします。ドクターヘリの利点としては、「医師が現場ですぐに治療を開始できる」、「高次医療施設への直送が可能」などがあげられます。

ドクターヘリは、日中のみの運航で天候によっては飛ばないなどの利用条件が決められています。また、京都府北部、兵庫県北部、鳥取県東部を一機でカバーするため、常に利用できるとは限りません。



ドクターヘリの運航時間の目安

救急件数は二千八百七十七件で、前年から十四件増加し、三年ぶりにわずかに増加しました。

事故種別では、「急病」が千三百七十三件（前年比八十件増）と全体の約六割を占め、「一般負傷」二百九十件、「交通事故」二百五十八件と続きます。搬送人員は二千八十六人（前年比四十一人増）で、峰山消防署（本署）

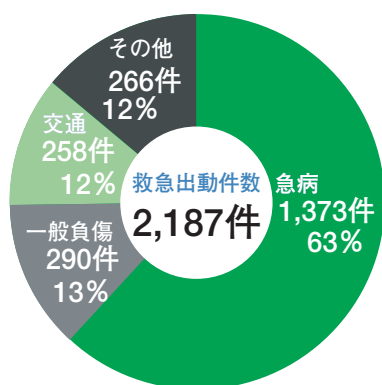
急病が約六割



【救急】

2,187件

救急出動件数割合



がその半数近くの九百四十七人、網野分署が五百十二人、久美浜分署が三百七十四人、竹野川分遣所が二百五十三人と続きます。

傷病程度別で見ると、死亡八十四人、重症二百二十二人、中等症百十二人、軽症など九百六十八人でした。搬送人員に対する軽症などの割合は四六・四割になります。

消防統計 2009

「安全で安心して暮らせるまち」にむけて



消防長 坪倉 護

本市では、昨年火災による死者はありませんでしたが、全国的には多くのかたが亡くなっています。特に住宅火災では、死者の6割のかたが逃げ遅れによって亡くなっていることから、逃げ遅れをなくすために、火災の発生をいち早く知らせる住宅用火災警報器の設置推進を行っています。

今後も「安全で安心して暮らせるまち」に向けて消防本部職員が一丸となって取り組んでまいりますので、昨年にも増してご支援ご協力をよろしくお願ひします。

三年連続減少



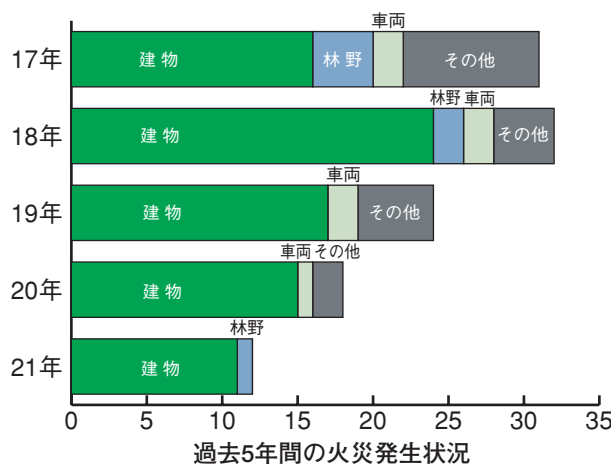
【火災】

12件

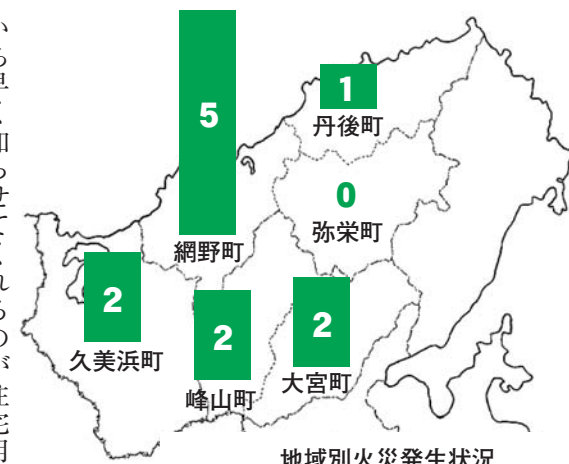
火災件数は十二件発生し、前年に比べ六件減りました。種別で見ると、建物が一十一件、林野が一件となっています。火災による負傷者は二人発生しましたが、死者はありませんでした。

前年に比べ、建物火災は四件減少しているものの、一件当たりの損害額が大きく、結果として倍増しました。原因別では、たばこ、焼却炉、たき火が各二件、その他の原因によるものが六件でした。

一人ひとりの防火意識を高め、火の元の不注意や不始末をなくすことが火災予防につながります。また、住宅で火災が起こった際に



いち早く知らせてくれるのが住宅用火災警報器です。火災による死傷者を減らすためにも、一日も早い設置をお願いします。



消防の広場

消防の広場

119番の適正な利用



【通信】

3,406件

指令室で取り扱った災害などの総受信数は三千四百六件で、前年に比べ七件減少しました。

携帯電話などからの通報は全体の約一八割を占め、前年に比べ六十四件増加し、年々増え続けています。いたずら・間違い・不明・問い合わせは全体の約二四割を占めています。市民のみなさんの適正な利用が、いち早い災害への対応につながります。

まとめ

平成二十一年を振り返ると、火災・救助ともに減少しました。これは日ごろからの市民のみなさんの「安心・安全」への取り組みの結果です。

近年の多様化する災害は、いつどこで起こるのかわかりません。住宅用火災警報器の設置をはじめ、災害を未然に防止する環境づくりが心掛けましょう。



救急一口メモ AEDJUNSN

市民のみなさん、「AED」という言葉を存じですか。「AED」とは日本語で「自動体外式除細動器」といいます。心臓が動きを停止してしまうと、二分ごとに約七〜一〇割ずつ救命率が下がるといわれています。

京丹後市では119番通報してから、救急車が現場到着するまでに平均八分三十秒程かかります。このことから、心肺停止をしているかたを発見した場合、現場に居合わせた



救急救命士 坂本 竜 児

かたには、いち早く胸骨圧迫と「AED」の準備を行っていただきたいです。

現在京丹後市では、保健所や各市民局・各高等学校に一台ずつ、小・中学校に合計十四台が設置されており、今後すべての小・中学校に「AED」が設置される予定です。

「AED」はだれでも使えますが、より確実な応急手当を身に付けるため、救命の第一歩である救急講習会にご参加いただくようお願いいたします。